

分析事例

- | | |
|--|---------|
| (1) 49歳以下の基幹的農業従事者数の割合
(市区町村別・農業集落別) | P 1 |
| (2) 10年後の地域の姿
(市区町村別・農業集落別) | P 2 ~ 3 |
| (3) 有機農業に取り組んでいる経営体数の割合
(農業集落別) | P 4 |
| (4) 1経営体あたり経営耕地面積の推移
(農業集落別) | P 5 |
| (5) 農産物販売金額1,000万円以上の経営体数割合
と主要部門 (市区町村別・農業集落別) | P 6 ~ 7 |
| (6) 後継者を確保している経営体の状況
(農業集落別) | P 8 |

(分析事例) 49歳以下の基幹的農業従事者の割合

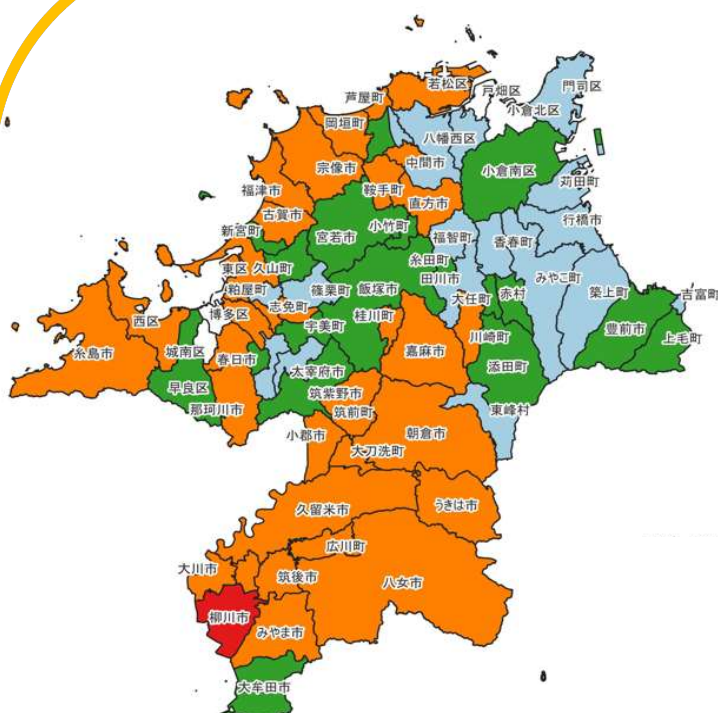
(福岡県)

<分析の視点等>

○基幹的農業従事者のうち49歳以下の割合をみる。

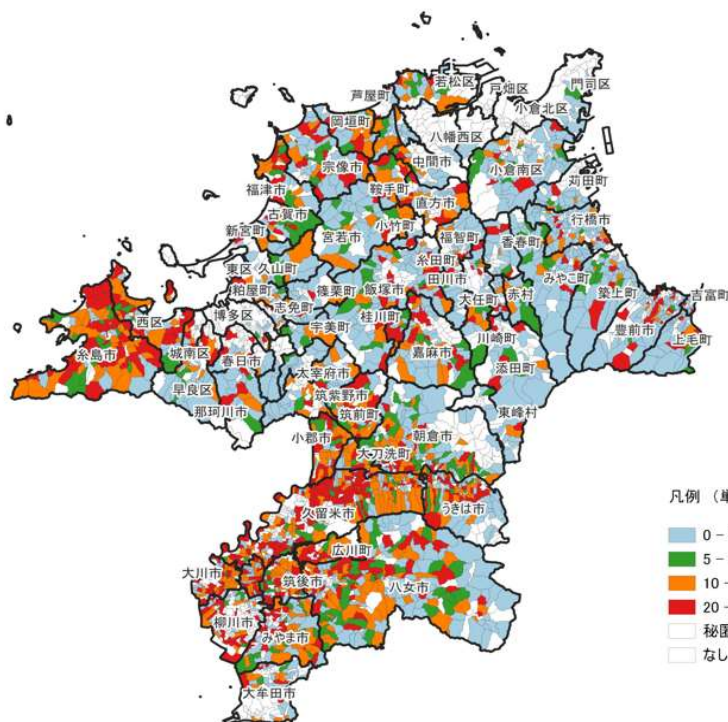
基幹的農業従事者数のうち、49歳以下（男女計）の構成割合を算出し、市区町村別や農業集落別にみることで、それぞれの地域における担い手の状況を明らかにする。

分析事例



福岡県の基幹的農業従事者は、38,077人のうち49歳以下は4,798人（12.6%）となっています。なお、市町村別の上位3位は以下のとおりです。

- ・ 1位：柳川市（21.1%）
- ・ 2位：大川市（19.7%）
- ・ 3位：広川町（19.4%）



○基幹的農業従事者とは？

ふだん仕事として主に自営農業に従事している者をいう。

(分析事例) 10年後の地域の姿 (65歳以上の割合の推移)

(福岡県)

<分析の視点等>

○国勢調査結果と将来推計人口から現在と10年後の地域の姿を比較する。

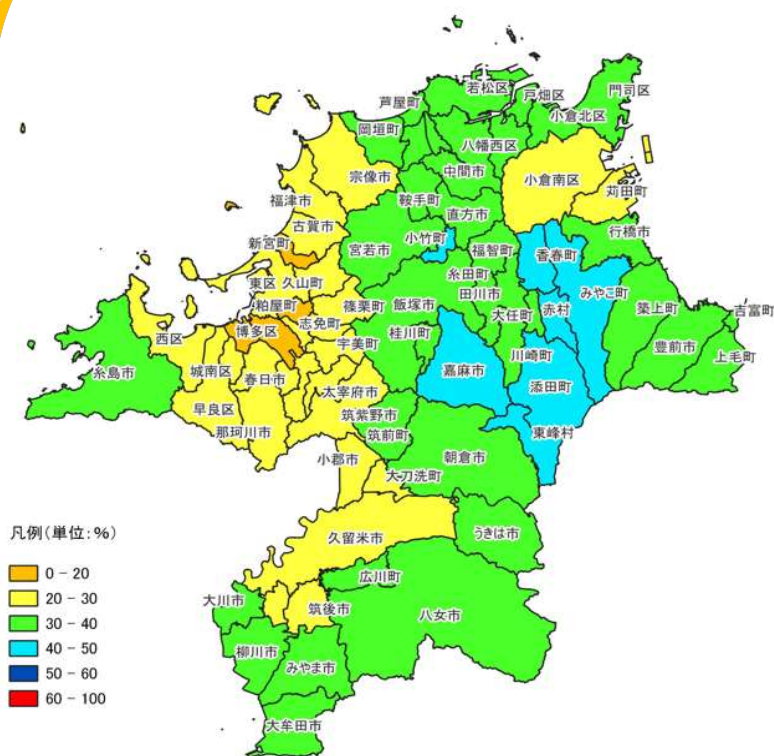
65歳以上の割合を2020年と2030年の10年間で市区町村別に比較し10年後の市区町村の姿を可視化して状況を明らかにすることで、地域活性化への施策に活用する。

分析事例

2020年



2030年



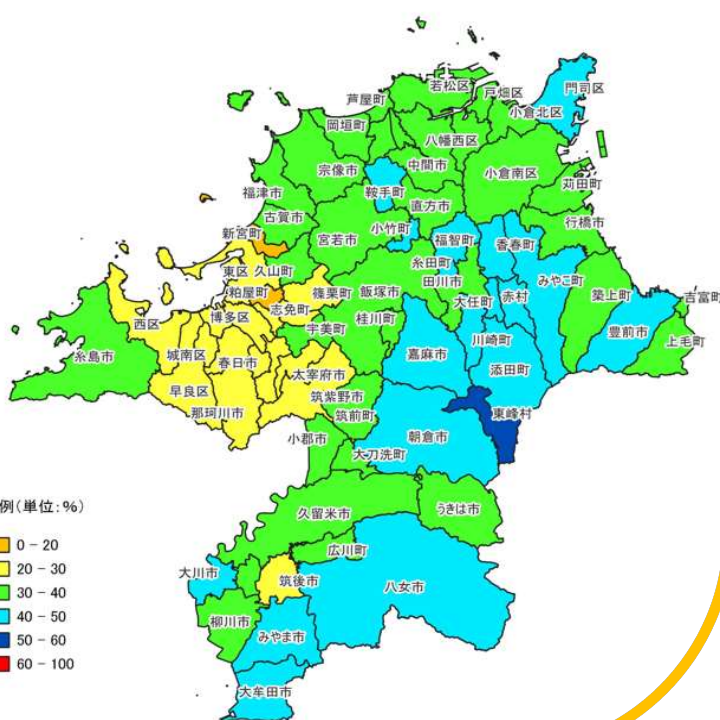
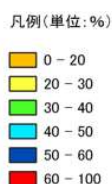
65歳以上の割合が高い市区町村
(上位3位・2030年)

- (1) 東峰村 (51.63%)
- (2) 小竹町 (46.44%)
- (3) 添田町 (46.15%)

2030年データ(推計方法)について

平成22年及び平成27年の国勢調査の町丁・字等別統計を2020年農林業センサスの農業集落の範囲で按分して集計した結果に基づき、農業集落ごとのコーホート変化率から将来人口を推計し、推計結果の市区町村別の合計が国立社会保障・人口問題研究所の公表値と一致するように調整しています。

なお、推計・調整の処理により、特定の地域に人口が集中する結果となる場合があります。



(分析事例) 10年後の地域の姿 (総人口と65歳以上の推移)

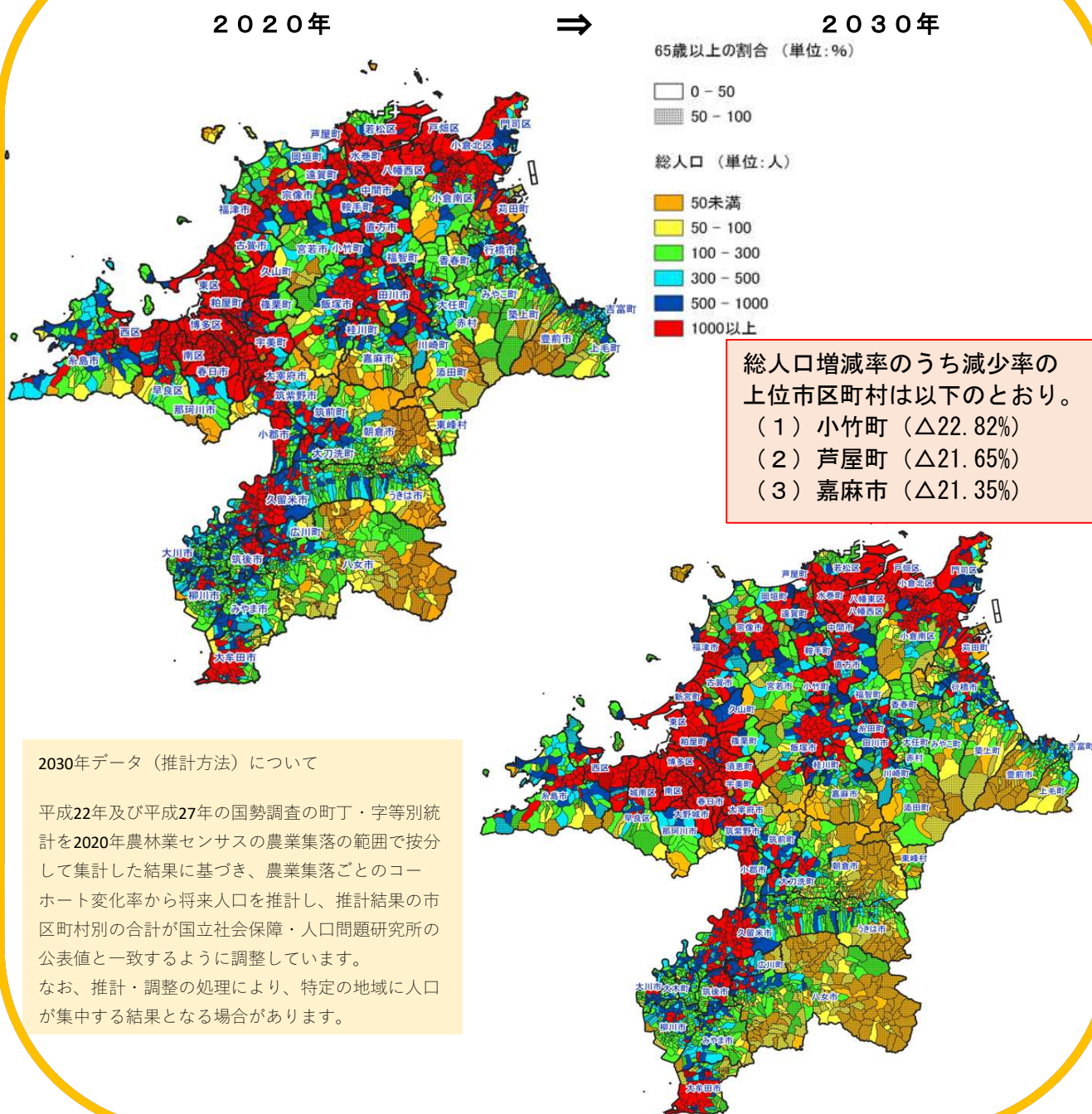
(福岡県)

<分析の視点等>

○国勢調査結果と将来推計人口から現在と10年後の地域の姿を比較する。

人口分布と65歳以上の割合を2020年と2030年の10年間で農業集落別に比較し10年後の農業集落の姿を可視化して状況を明らかにすることで、地域活性化への施策に活用する。

分析事例



(分析事例) 有機農業に取り組んでいる経営体数の割合

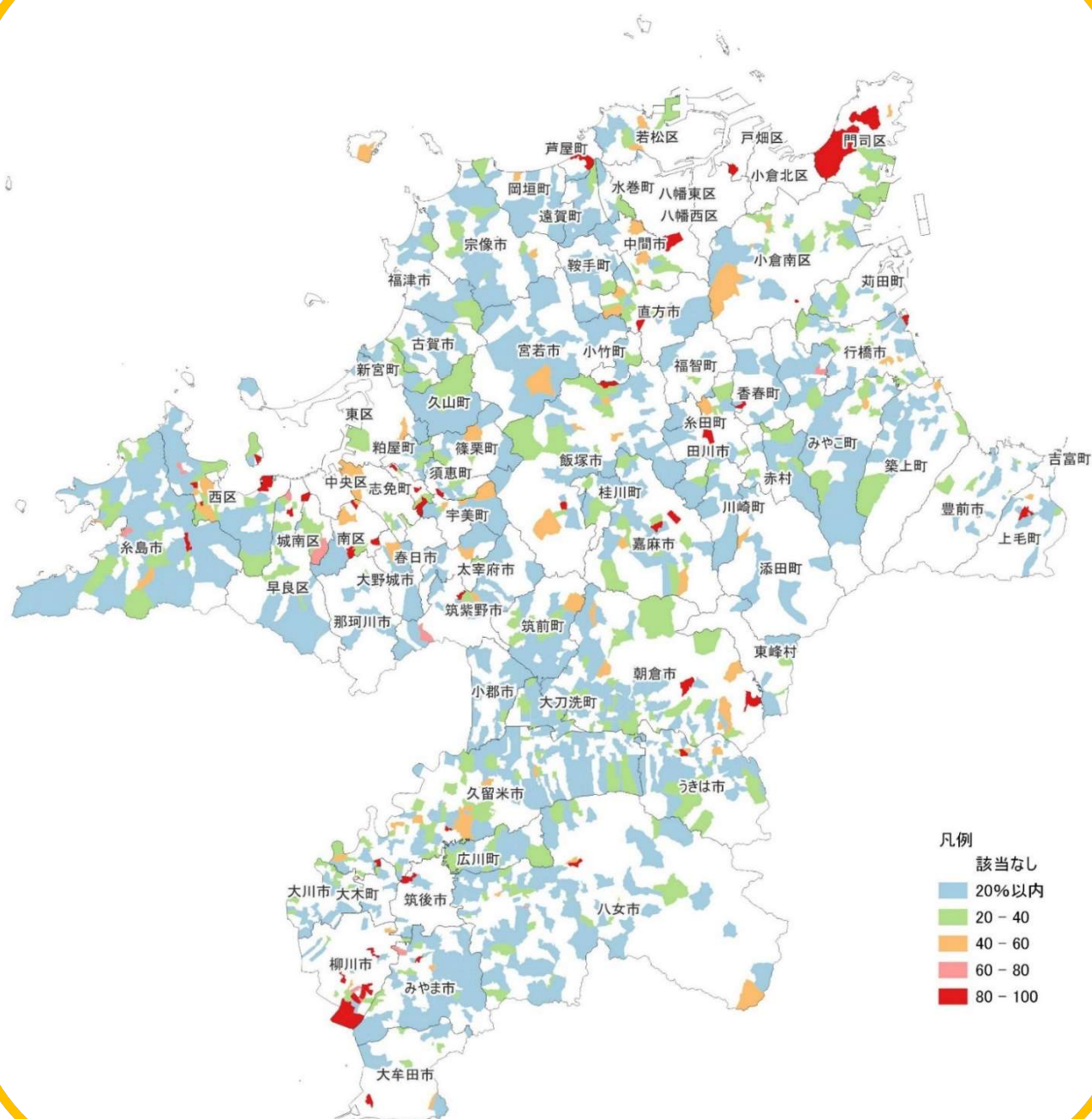
(福岡県)

<分析の視点等>

○有機農業に取り組んでいる経営体数の割合をみる。

農業経営体のうち有機農業に取り組んでいる経営体の取組み割合を農業集落別に把握し、「みどりの食料システム戦略」等の施策推進に向けた現場の状況を明らかにする。

分析事例



(分析事例) 1 経営体当たり経営耕地面積の推移

(福岡県)

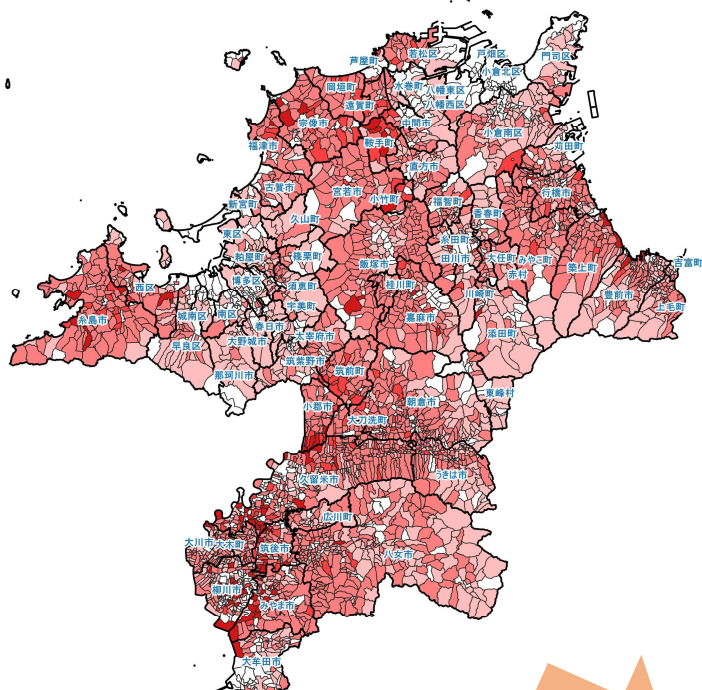
<分析の視点等>

○農業経営体の経営耕地面積の推移をみる。

1 農業経営体当たりの経営耕地面積について、2010年と2020年の10年間を農業集落別に比較し、経営耕地面積の変化と農業経営体への農地集積の状況を明らかにする。

分析事例

2010年



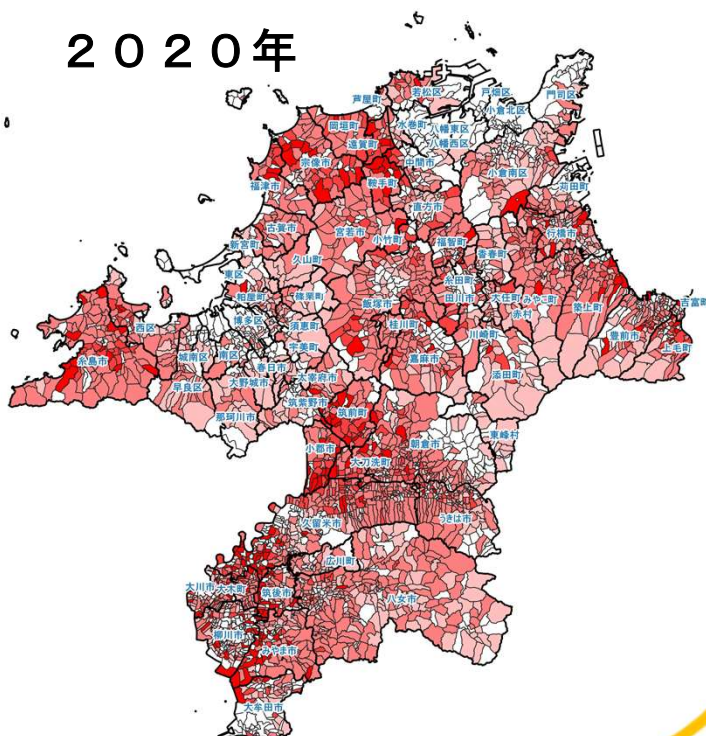
1 農業経営体当たりの経営耕地面積

- 経営耕地なし
- 1ha未満
- 1～3
- 3～5
- 5ha以上

1 経営体当たり経営耕地面積 (福岡県)



2020年



(分析事例) 農産物販売金額1,000万円以上の経営体数割合と主要部門

(福岡県)

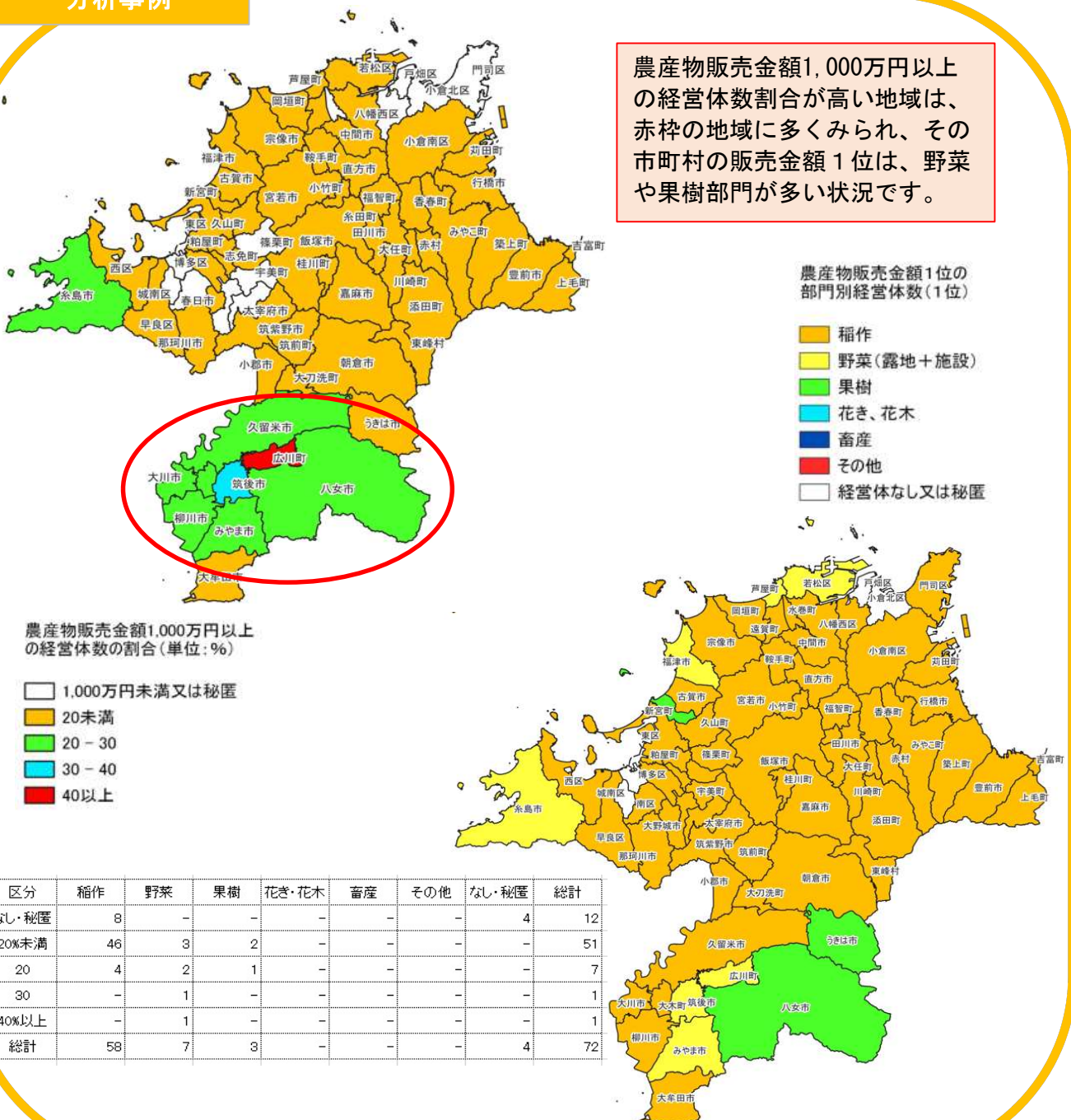
<分析の視点等>

○農産物販売金額1,000万円以上の経営体数割合と販売金額1位の部門別経営体数をみる。

農産物販売金額が1,000万円以上の農業経営体数の割合と農産物販売金額1位の部門を市町村別にみることにより、地域で作付けされている主要な作目と販売金額の関係を明らかにする。

分析事例

農産物販売金額1,000万円以上の経営体数割合が高い地域は、赤枠の地域に多くみられ、その市町村の販売金額1位は、野菜や果樹部門が多い状況です。



(分析事例) 農産物販売金額1,000万円以上の経営体数割合と主要部門

(福岡県)

<分析の視点等>

○農産物販売金額1,000万円以上の経営体数割合と販売金額1位の部門別経営体数をみる。

農産物販売金額が1,000万円以上の農業経営体数の割合と農産物販売金額1位の部門を農業集落別にみることにより、地域で作付けされている主要な作目と販売金額の関係を明らかにする。

分析事例

